

保護者の皆様へ

白樺学園高等学校長 嶋野幸也

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。

一昨年の暮れに「中国の武漢で原因不明の肺炎患者が出ている」とのニュースに接したときは、「また SARS が発生したのかな？」位にしか思っておりませんでした。が、昨年の 1 月に最初の感染者が見つかって以来、1 年が過ぎようとしている今日でも、未だ感染拡大に歯止めがかからないという状況を、一体誰が想像できたでしょうか。

春先の第 1 波の際には、まだこの新型コロナウイルスに関して解らないことが多く、国や自治体も手探り状態の中での対応を余儀なくされ、緊急事態宣言が発出される中で、学校も長期にわたって休業せざるをえませんでした。

学校再開後においても、学校行事等は、常に感染対策を意識しながら、やり方を変えたり、規模を縮小したりと、様々な工夫が求められました。

もちろん中止という厳しい判断を下さざるを得ない時もありました。

そのような中、修学旅行だけは当初のスケジュール通りに実施でき、かつ一人の感染者も出さずに終えることができたことは、一番の喜びでありました。

他の高校が相次いで延期を決める中であって、私はこれまでの感染者の推移から、必ず 10 月下旬には感染者数の波は底を打つと考えておりましたので、Go サインを出し続けました。

そういった経緯もありましたから、私が責任者として引率して行こうと考えておりましたが、左目が網膜剥離になってしまい、その責任を果たすことができず、誠に申し訳なく思っております。

これまでもそうでしたが、一つひとつ厳しい判断を下すとき、国や道教委からの通知は拠り所にはなりますが、それが全てではないと考えております。

それは、私学としての矜持でもあります。

新型コロナウイルスは、私たちの生活様式を大きく変えてしまいましたが、そうであれば、学校も変わるチャンス、変えるチャンスが今なのだと考えます。

私は、今年を“変革の年”と位置づけます。

そして、「できない理由を探す」ことから「出来るようにするにはどうしたらいいかを常に考える」という思考回路にたって、本校の質を高め、イメージを変えていきます。

With CORONA という大変な時代に生きる生徒たちにエールを送るとともに、皆様の益々のご健勝を祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。